

日刊 動労千葉

81.12.21
No. 926

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇五五（宅）七二〇七

12月18日、動力車会館において全支部組織
部長会議が南
催され、激化
する国鉄35万
人体制攻撃、
「職員管理委員会」設置をもってする新たな
具体的取り組みを中心に論議し意志統一した。

全支部組織
部長会議(12/18)

35体制・新マル生攻撃粉碎！
「支援基金」の取り組みを確認

千葉支援
基金「一
人一口獲
得運動の

35体制攻撃の全面化に反撃を！

している。

会議は、林特別執行委員を座長
に選出して進められた。本部を
代表して山口副委員長の挨拶を
うけたのち、吉岡組織部長から情
勢報告と方針が概要つぎの通り
提起された。

1. 世界情勢の激動的展開は、米
帝レーガンによる核軍拡・戦争
挑発政策と、ポーランド危機の事
態によって戦争の危機がますます
高まっている。こうした中で、
日帝鈴木体制は軍事大国化・改
悪・安保強化を焦点とした反動
攻勢をつよめ、「行基、右翼労戦」
統一攻撃をもって、総評労働運動
解体をおし進めんとしている。

とりわけ帝国主義的労働運動へ
より一歩近づくと12.14統一準備会」
結成を断固として弾劾しなければ
ならない。

2. 国鉄をめぐる情勢は、「赤字
悪慣行」を口実とした大々的なキ
ャンペーンをもって、全面的な攻撃
を開始してきた。それは、35体制
ではなまぬるいとする政府・資本
の側は、オニ臨調で「25万人体制・貨
物全廃・分割論・民営論」検討をも
つて攻撃をエスカレートしてきた
こと。同時に国鉄当局は、「現場管
理と合理化は車の両輪」として11
月16日「職場管理委員会」を設置し、
新マル生的労務支配強化を画策

3. こうした情勢の中で「動労本
部」反動分子は、「国鉄有用論」をもって
企業防衛主義を叫びだして、検修民
託化攻撃に対しては「忸怩度」を高
める等とまで主張するに到り、合
理化の尖兵と化している。しかも
土屋粹一派を使って「職場規律の
厳正」を権力・当局に要求し、新マル生
攻撃の尖兵の役割を果している。
4. 以上の攻撃を見すえ、動労
千葉は35体制粉碎・「本部」反動分子
一掃追放・新マル生攻撃粉碎を職
場闘争の高場と三里塚二期着工
阻止闘争への結合をもって闘い
とらなければならぬ。

三里塚・ジェット闘争貫徹／「国鉄35万人体制」粉碎！

「支援基金」一人一口獲得運動の成功へ！

争をより一
層強化する。

1. 「支援基金」運動の現状は、11月
25日現在、二七六六万円を突破し、
動労千葉の「三里塚・反合を基軸に闘う
労働運動」路線の潮流の拡大として大き
く前進している。その成果が12.3集会
125単組・92名の結集として現出した。

の強化「動労千葉への広範かつ重層的
支援・連帯の環の拡大」をかちとり、組
合員一人一人が活動家へ飛躍するもの
としてかちとらなければならぬ。その
為にはまず、役員・活動家が先頭にたつて
他労組、OB、友人、知人等、へ積極的に
働きかけ、組織化しよう。

①、「支援基金」一人一口獲得運動の具体
化を積極的に取りこむ。
②、12.3労働者集会の成功をみきつぎ、
右翼労戦「統一」粉碎、三里塚二期着工阻
止へむけた「労働者本隊の総決起」を促す
ものとして、来年1月31日労組総集会
3月6日「81.3」ジェット決戦一周年、80年代
を闘う全国労働者集会」の組織化
に取りこむ。

2. 「支援基金」一人一口獲得運動は、
81.3闘争の地平を堅持し「三里塚・反合
を基軸に闘う労働運動」の全国的拡大
動労大改革―右翼労戦「統一」粉碎―
労働運動の戦術的再生をめざして動労
千葉が主体的に取り組む運動であること。
3. この運動の史策を通して「闘う主体

以上の提案の後、三時間行われ
る討論が行われ、今後の闘いについ
て次の確認を行った。
①、新マル生攻撃粉碎闘争の一環とし
て、既得権はく奪攻撃を許さず、職場闘

④、57年度新採獲得にむけて取り組
みを強化する。
以上を確認し、会議は成功裡
に終了した。